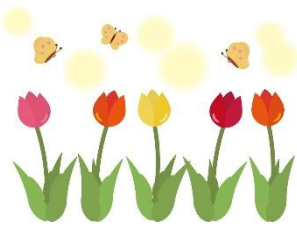


♪気持ち良い声の掛け方、居心地の良い環境とは？



- 在宅で介護を続けていくことは本当に大変ですよね。認知症の人に介護を拒否されてしまう理由のひとつに認知機能の低下があります。認知機能が低下していると介護する側の意図を理解してもらおうのに時間が必要になります。相手にしっかりと届く話し方や触れ方により、認知症の人と良い関係を築きやすくなります。また、関係性が良好ならば「この人と一緒にいることは心地良い」という感情記憶が認知症の人に残るようになり、介護を受け入れてもらいやすくなりますよ。
- ♪基本的なポイント
- ①相手の視線に合わせて見る
 - ②ゆっくり穏やかな口調で話す
 - ③優しく包み込むように触れる
 - ④次の動作を説明してから動く



見る



話す



触れる



立つ

実際に家族が介助する場合、感情が先に出てしまい、「毎日の事なので優しくなんて言ってもらえない！」と思われるかもしれませんよね。しかし、認知症が進行しても感情の記憶は比較的残ると言われています。介護する側がイライラして早くしてほしいという気持ちで接すると、相手にその感情が伝わり大きなストレスを与えてしまいます。伝え方をほんの少し工夫して、相手に合わせてみましょう。介助の後には「気持ち良かったですね」「ありがとうございました」など協力してくれた事へのお礼を伝えるとお互い気持ち良いものです。



♪リラックス出来る空間作り

居心地が良いと思う環境については人それぞれ違いますよね。賑やかな場所を好む人もいれば、一人静かに好きな事に集中して過ごしたい人も実際におられます。「デイサービスセンターかよい」での取り組みを少しご紹介します。

自宅では常に畳の部屋で座って過ごしているというケースでは似た空間を提供したり、他利用者の行動が気になって落ち着かないのであれば座席の向きを変えたり、パーティションを設置するなどの工夫をしています。同じ部屋でありながらも、レイアウト次第で落ち着いて一日過ごす事が出来ています。必ずしも集団での交流が最良ではなく、その人にとって居心地の良い環境なのかを大切にしたいと日々思っています。

